

神奈川山梨教会連合会だより

# かりん

## 藤沢教会布教百二十一年に向けて

金光教神奈川山梨教会連合会

信徒部次長 高橋義吉

来年、令和四年に、神奈川山梨は布教百三十年を迎えます。

十年の差がありますが、藤沢教会も布教百二十年の節年を迎えます。同時に、藤沢教会の初代教会長である増田金太郎先生の百年祭というお年柄でもあります。

増田金太郎先生は、神奈川教会の初代教会長を務められ、その次に藤沢教会を設立されました。藤沢教会は、戦時中に市役所の事務所として一時的に接收されたこともありましたが、戦禍を被らずに返還され現在に至っています。

この歴史ある教会の百二十年を迎えるにあたり、現在の教会長や信徒達の、教会へのお礼奉公を述べさせていただきます。

○

1 信者さんの高齢化と、身寄りの家族が少なくなり、教会にお骨が預けられたままになるケースが増えてきたので、教会布教百二十年の記念事業として教会墓地に共同墓所を築造しました。

2 教会建築後六十年を超える木造建築部のリニューアルとして、廊下床のキシミとタワミが目立ったため、対策として床の上面に床板の張増しを行いました。

3 春になるとハクビシンが居候して住み着くため、廊下天井が垂れ下がっていましたので、天井をはがして張り直しを行いました。

4 駐車場側の杉板張りの外壁に穴が開いたり、ずれてしまったりしていたので、壁面保護のため、外面にカラートタンを張り補強しました。

5 お広前の蛍光灯が暗くなったりしていたので、電気工事士免許を持つ信者に、省エネのLED照明に交換工事をしてもらいました。

6 教会活動の拠点になる打合せスペースに、待望のエアコンを設置しました。

○

以上、先生と輔教が中心となって企画し、できるだけ自前施工しました。

昔は、教師と信者が協力して教会を自分で建てた事があるそうで、実際に出来たら素晴らしいと皆で夢見ています。今後も、屋根の塗装等をなるべく手作りで行って、綺麗になった愛着のこもった教会で布教百二十年を迎えたいと思っています。施工時の写真を添付します。



↑ 外壁工事



↑ お広前LED工事



→ 藤沢教会匠会  
右から鈴木紀男、高橋宗哉、高橋義吉

## 「女性のつどい」が開かれました

去る6月20日(日) 13時半から15時10分まで、「女性のつどい」が丸子教会を会場に開かれました。

司会の山田初子信徒部次長の開会宣言に続いて、横山光雄丸子教会長の先唱でご祈念をいただき、山口和賀雄信徒部長のご挨拶が続きます。

「コロナ禍のため、ほとんどの会議、集会所がリモートになり、こうして対面で集會を持つことは久しぶりのこと、直接お目にかかれる集會は、やはり温もりを感じるこゝとが出来て、有難い。連合会の活動方針の中に『お道の仲間をつくろう』というのがあるが、今日はお二方の信心仲間のお話を聴かせていただいて、いっそう信心を深めたいと願っている、どうぞよろしく」。

今回は「私にとって教会とは」というテーマでお話を聴かせていただくことになっていて、まず渡辺宣子さんから。

私の両親が金光教の信心をしていました。渡辺家に嫁いだあとも、参拝を続けていて、3人の子供に恵まれました。3人目の女の子(美登里)が生後44日目に風邪を引いて肺炎になり、高熱を出したのです。そのために障がい児になってしまいました。発作

を起こすようになり、戸惑い、不安、心配でいっぱいでしたが、発作の度に教会にお電話してお取次をいただき、「何があっても神様がついていて下さる、先生がお祈りして下さっている」と思いましたし、本気で神様に向かうようになつたと思います。美登里は何度か入院を繰り返しましたが、発作が止まることはなく、何百回と起こしています。薬はとても大事で、忘れると発作が起きるので、絶対に忘れることは許されません。薬局で薬をいただくと、まず教会に参り、先生にご祈念を籠めていただき、それを飲ませるようにしていました。2年前から美登里は施設に入れていただいている、今は見舞いに行つてあの子の笑顔を見ることが楽しみです。

主人は6年前に膵臓がんと診断され、内視鏡で調べたりいろいろ診ていただいたのですが、結局自己免疫性膵炎とわかり、ステロイドの点滴を受けて、よくなりました。ただきました。

私も55歳の時に、クモ膜下出血を起こしお風呂で倒れたのですが、その少し前に、主人が60歳になり、定年退職しておりました。私は48日間入院したのですが、その間、美登里と私の面倒をみてくれて、ご都合お繰合せをいただきました。私に意識が戻つた時、美登里の面倒を夫がみてくれていたと知って、ほんとうにうれしく安堵しました。先生からは「おかげの筒の中で生かさ

れているんだね」という言葉をいただきました。

昨年暮れには大動脈弁狭窄症という病気でカテーテルによる手術を受けたのですが、入院中、教会長先生から毎朝メールをいただき、日めくりカレンダーの教えが添えてありました。まるで金光様がそばに居て下さるようで、大きな力をいただきました。

私にとって教会とは、親族や友人と励まし合いながら喜びを共にするところ、仲間たちと信心の話を共有できるところで、教会にお参りすることが楽しみです。79年の私の人生は、ご都合お繰合せをいただきっぱなしで、おかげの筒の中で生かされて、生きてきたのです。これからも先生や実家の父が教えてくれた「ありがとう」、「感謝の心」を胸に、歩んで参りたいと願っております。



渡辺宣子さん

次に、藤澤昌子（しょうこ）さん。

私は宮崎県の生まれです。家族や親族が金光教の信心をしております。

父は38歳の時に網膜剥離から失明しましたが、母は「どんな状況になっても神様だけは離さない」という強い信念で、父の目となり、手足となつて、献身的に看護していました。父は「信心は幅広く、奥深く、高いもの、心眼をいただくためには神徳を積み重ねばならぬ」と言っております。

20歳の時、私は聖マリアンナ医科大学の東横病院の手術室に就職して、上京しました。宮崎で参拝していた大淀教会長の松井一先生と丸子教会の親（敏三）先生は修徳殿の御用が一緒だったということがあつて、丸子教会に参拝させていただくようになりました。都会での若い女性の一人暮らしです、親が心配して、いろいろなものを送ってきます。それを「教会にお持ちするように」と、つまり私を教会に近づけようとしていたのです。

親先生は優しいおじいちゃんというイメージの方で、一人暮らしの私に「ただいまって声に出して言ってごらん、気持ちが変わってくるよ」と教えて下さいました。

結婚が決まった時、二つのことを教えて下さいました。「信心は家内に不和のなきが元なり」「親を大切にしなさい」ということでした。また「当り前のことを常に感謝す

るように、悩みがない時に無理して教会に来ることはないよ」、「日々の生活の中で、愛、思いやり、信頼の心を大切にし、お詫びとお礼の心を持つことが大切です」など色々と教えていただきました。

平成元年に難産の末、長男が誕生し、その後、桶川市（埼玉県）で親と同居することになりました。丸子教会まで2時間かかり、なかなかお参りできなくなりましたが、母の生き方や親先生のお言葉を思い出して祈っております。平成16年、親先生が帰幽された時は、ショックでしたが、その後も現教会長先生ご夫妻に、親先生と同じように接していただいております。

平成17年、宮崎の姉と妹が上京し、3人で丸子教会の一泊研修会に参加させていただきました。姉は先生とメール交換をしていて、心の叫びを聞いていただいています。だが、乳がんに罹りました。先生に「病気になる」と痛いことに気をとられ、不足が出がちです。今まで生かされてきたことにお礼申し、改まっていくことが大切です」と教えていただき、姉は心穏やかに帰幽させていただきました。前日には、家族の素晴らしさ、姉妹の有難さ、命の大切さについて、先生とやりとりし、「先生、ありがとうございます、私は幸せです、頑張ります」というのが最後のメールだったそうです。

今年の5月1日、愛犬のエーデルが亡くなり、その死を受け入れられず、辛い思い

をしましたが、先生や信徒の皆様を支えていただいて、前向きになれたことを感謝しています。いろいろあつた中で、元気に生きてこられたのは、金光教のおかげです。金光教を伝えてくれた親に感謝したいです。私にとって教会とは、生きる方向を教え、してくれるところ、道を付けて下さるところ、です。今後も神様はもちろん、教会長先生ご夫妻や信徒のお仲間感謝しながら、御用を通じて信心を学んでいきたいと願っております。



藤澤昌子さん

その後、参加者の皆さんに自己紹介を兼ねた一言スピーチをしていただき、閉会行事に移りました。

閉会挨拶は、大塚東子信徒部次長、「私にとって教会とは」というテーマでお話していただいたが、金光教の信徒である私たちにとっては、人生を語ることであり、信

心を語ることにつながっているのだなあと思った。お二方の感動的なお話を聴かせていただいた。元気をいただき、感謝申し上げます。金光教を伝えてくれた親に感謝したいという一言が印象に残ったが、私たちがもいつか子供たちに金光教を伝えてくれてありがとうと感謝される日が来るに違いない、信心継承を頑張っていきたいと思う」と話し、横山教会長のご祈念をいただいて散会した。

丸子教会には、この日の月例霊祭の予定を繰り下げていただき、そのおかげで21名の方がつどいに参加して下さい、コロナ禍の中を感謝申し上げます。丸子以外の教会からは7名の参加者があり、活発で楽しい意見交換が出来ました。

また、立派な「女性のつどい」用のパンフレットを作ってください、信者さんにもってアンケートを実施していただいたり、行き届いたお心遣いにお礼申し上げます。

(報告

大塚東子)



## 「教師会」が開かれました

8月16日(月)、今年3回目となる教師会が、リモートで開催された。参加者は11名だった。

会長からの挨拶の後、連合会各部、各プロジェクトからの報告が行われた。また、来年度の130年事業で行われる「祈願詞」について協議が行われ、他、ご霊地集会や記念冊子について報告がなされた。(決定した祈願詞は12月に発送の予定です)

続いて研修に移り、「取次と教導の充実のために」のテーマで南清孝師(登戸教会)から発表がなされた。

南師は、登戸教会初代教会長が初参拝から布教に出る経緯、また自身の子どもが事故に遭った時に、妻が受けたご理解などを紹介しながら、「取次は教師でも信徒でも誰でもできるし、どこでもできる。しかし境界取次は教師のみであるということ、取次でのご理解は教導であるということだ。またご理解を語る時には、どのような信心をしてほしいのか、明確にしておく必要がある。私は、神様の有り難いことを知る、感謝の心を持つ、そして信心を伝える、という信心をしてもらうことを目指して取次にあたらせて頂いている」と自身が心がけている姿勢を語った。

その後、この発題を受けての質疑応答、そして懇談が行われた。

(安達幸則)

## 〈な・が・れ〉

### 「コロナ禍に思うこと」

野毛教会 大貫孝一

テレビのニュース番組、新聞、雑誌でも、近所の人との会話でも、コロナに対する恐怖を話し合ってしまう自己暗示をかけているような気がする。

コロナに対しては、外出する時、不織布マスクを励行し、マスクをしても鼻呼吸が良く、帰宅後は、手洗い、うがいを行うこと。喉、気管にウイルスが付いたら、すぐに発症するから、うがいはこまめに。人と対面する時はマスクをして安全な距離を保つこと。また、コロナばかりに気を囚われないで、音楽を聴いたり、読書をしたりと気分転換の必要性も言われます。

そんなコロナに対する恐怖心や、日常生活における制限にしばられる窮屈さは、不平不満を社会や他人に向けてしまう、弱い存在である私たちの内面を知らしめました。不満を溜めることによって、腹を立て、心の鏡を曇らせ、正しい判断ができなくなってしまうのです。

頭の中に怒り、不満、取り越し苦労が溜まったら、大きくゆっくり深呼吸をして気分を落ち着かせ、常に自分が健康で、日常生活を送れることへの感謝、周りの方々への感謝、たとえ小さな事でもよいから、有り難い事を見つけていきましょう。

### 金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 山田 信 一

横浜市泉区下飯田町926・23

〒245-0017 金光教横浜西教会内